



【入選作品】母からの“お守り”が、私を何度も救ってくれた ～母がくれた“保険”という名のお守り～

※コンサルタント自身の保険に関するエピソードです。

就職が決まったとき、母から「医療保険に入っておきなさい」と言われました。当時の私は、医療保険がどんなものか、公的保険とどう違うのかもよく分かっておらず、ちょうど進学や就職のことで母と意見が合わず、ぎくしゃくしていた時期だったこともあり、「また何かうるさいことを言ってるな……」くらいにしか思っていませんでした。母を納得させるために、掛け捨ての手頃な医療保険に加入したのが、私にとって最初の“保険体験”でした。

時は流れ、私は2年前に結婚。不妊治療を経て、昨年第一子を妊娠しました。ちょうどその頃、不妊治療が保険適用となり、加入していた医療保険から保険金が支払われました。先の見えない治療に心も身体も疲れていた中で、金銭的な不安が和らいだことは本当に救いでした。けれど、喜びも束の間、今度は切迫流産で入院することに。深夜に突然の大量出血があり、「もしかしたらダメかもしれない……」と夫とふたり、覚悟を決めて病院へ向かいました。幸いにも赤ちゃんは無事でしたが、安静が必要な状態で、そのまま即日入院となりました。ベビー用品の準備などで出費がかさむ時期でしたが、このときも医療保険のおかげで、ほとんど自己負担なく済みました。退院後、母から「神社で安産祈願してきたよ」というメッセージとともに、安産守りが届きました。

10年以上前、母に言われて加入した医療保険——その保険に、何度も何度も助けられて今があります。娘に煙たがられることを承知で、母が親心から勧めてくれたその保険こそが、私にとって一番の“お守り”だったと、心から実感した瞬間でした。まもなく、私も母になります。今度は私が、我が子に一番の“お守り”を授けてあげたいと思っています。